

# PC環境の動向

## ～ UMPC (Ultra Mobile PC) ～

総合メディア基盤センター 情報基盤部門 井町 智彦

### 1 変動する PC 環境

IT 技術の進歩はとどまるところを知らず、昨今の PC 環境は変化を続けています。ハードウェアは高機能化と小型化それぞれの流れにおいて進歩を続け、またソフトウェアについてもハードウェアの進歩に伴う高機能化の他、無料ソフトにおいても商用品と同等もしくはそれを凌駕するものが次々と現れています。

2008 年の大きな出来事として、UMPC (Ultra Mobile PC) の登場が挙げられます。ノート PC の体裁を保ちながら、それまでの常識では考えられない価格帯で登場し、ノート PC 全体の価格帯にも大きな影響を及ぼしています。

### 2 UMPC とは

UMPC は 2008 年に登場した ASUS EeePC を皮切りに、数多くの機種が販売されています。これはミニノートやネットブックとも呼称される小型のノート PC で、最大の特徴はその販売価格にあり、5～8 万円程度で購入が可能です。小型とはいえ Microsoft Windows が十分に動作するだけの性能を備えていますが、小型化・低価格化をコンセプトとしているだけに、通常のノート PC よりも制約が大きいことも事実です。

#### ■画面の大きさ、キーボードの大きさ・配置

大抵の機種は、対角サイズが 10 インチもしくは 8 インチ前後のワイド画面であり、キーボードのサイズもそれに合わせた大きさになっています。特に 8 インチ前後のものの場合、タッチタイプによる入力が増える場合があるので注意が必要です。また小型化のため、キー配列が通常のキーボードと異なっていたり、一部のキーが省略されていたりする場合もあります。

#### ■画面の解像度

現在販売されている機種の大半は、画面解像度が 1024×600 ピクセルです。これに対し、市販ソフトウェアのシステム要件は、大抵の場合 1024×768 ピクセルとなっており、また各種 Web コンテンツ等もこの解像度を前提としている場合が多いようです。実際には特に問題とならないケースが多いと思われ、また仮想的に解像度を上げることも可能ではありますが、注意が必要です。

#### ■稼働継続時間と可搬性

ほとんどの機種では、バッテリーによる稼働継続時間はそれほど長くありません。大抵の場合、携行する場合は電源アダプタを持ち歩く必要が生じますが、これがあまり小型化されていないケースがあります。またアダプタ本体は小さくとも、充電時間短縮のために太めの電源ケーブルが使用されている場合もありますので、購入前に実機で確認する事が推奨されます。

#### ■ファイルストレージ

通常の HDD の代わりに SSD (Solid State Drive) が採用されている機種があります。これは HDD のような回転機構を持たないので衝撃に強く、省電力なので動作継続時間の向上にも大きく貢献しますが、その反面容量が小さく、USB メモリ等の外部メディアの併用が必須となります。登場当初は書き込み速度が遅い問題があったのですが、それについては随分と改善が進んでいます。

#### ■処理速度

PC の高性能化に伴いソフトウェアの処理能力、各種リソースへの要求も年々大きくなってきています。UMPC は Microsoft Windows が十分に動作するだけの性能を備えていますが、それでも通常のノート PC と比較すると、処理速度の面で見劣りがするのは否めないところです。

### 3 「割り切った仕様」に適した使い方を

このようにある程度の制約はある UMPC ですが、有線・無線 LAN、USB ポート、SD カードスロット、外部ディスプレイコネクタ等はほとんどの機種で標準装備となっており、用途次第によっては大変有効に活用できる機器です。例えば画面サイズの関係からプレゼンテーションの作成には苦勞を伴いますが、出張先等での使用には大いに活用できます。一言で言えば「割り切った仕様」で製作された機器であり、万能ではありません。過度の期待は禁物ですが、適切な用途・使い方を見出すことができれば、大いに活用できる機器であるといえるでしょう。